

The background of the cover is a vibrant blue sky with scattered white clouds. A semi-transparent, light blue grid pattern is overlaid on the central text area.

環境・安全
報告書
2010

Environmental And Safety Report

CONTENTS

－目次－

1. 編集方針／報告対象範囲	1
2. トップメッセージ	2
3. 会社概要	3
4. 基本理念	4

Environmental

Environmental

5. 環境マネジメントシステム	5
6. 2009年度環境目標及び活動実績	6
7. 環境配慮型製品の提供	7
8. 地球温暖化ガスの排出削減 地球温暖化ガスの排出削減推移、 個別のエネルギー使用の削減推移	9
9. その他の環境負荷低減活動 省資源活動、廃棄物の排出削減	10
10. 環境教育	11
11. 環境監査	13
12. 環境リスクマネジメント	15
13. 環境コミュニケーション	16
14. 地域貢献・工場独自の活動	18
15. (株)サンユー技研の環境活動	21

Safety

Safety

16. 安全衛生管理	23
17. 環境負荷マスマランス	26

編集方針

凌和電子(株)は、環境マネジメントシステム(EMS)の導入以来当社の環境活動をご紹介する目的で毎年環境報告書を発行して参りました。今回は5年目となり、環境目標に掲げた活動はもとより、安全衛生活動の充実化や社会貢献活動の強化などを図ってきましたので、これらについても併せて紹介いたしました。又、内容は、中期計画に基づき当社の重点目標とした「環境配慮型製品の提供」及び「地球温暖化ガスの削減」等の活動と共に、地域社会との共生としての社会貢献活動や行政施策への関わりに加えて、今回初めてですが当社関連会社の環境活動の紹介も含めております。本報告書は、環境省「環境報告ガイドライン～持続可能な社会を目指して～(2007年版)を参考としています。

報告対象範囲

- 報告対象期間
2009年7月1日～2010年6月30日
(2009年度)
- 報告対象
凌和電子株式会社
(本社、本社工場、元町工場、山形工場)
株式会社サンユー技研

2

トップメッセージ

環境安全報告書2009年版を発行するに当たり一言ご挨拶申し上げます。

昨年は、リーマンショックが引き金となって生じた世界的な金融危機の影響で、日本も国内消費の落ち込み等から抜け出せず大変な不況が続きました。当社においても今まで経験したことのない厳しい事業環境におかれましたが、このような経営環境の中、このような時こそと創立以来の企業理念である「創造と奉仕の精神」を礎とし、たゆまぬ技術の研鑽に努め、お客様及び社会の要請に応えるべく努力してまいりました。

その中の環境保全分野では、2009年度は第2期中期計画の最後の年にも当たり、「環境配慮型製品の提供」をはじめとする環境活動に全社一丸となって努力してきた結果、3年間の集大成として全項目達成することが出来ました。

2010年7月からは新たに第3期中期計画(2010～2012年度)を定めスタートしています。具体的な活動として「環境配慮型製品の提供拡大」、「地球温暖化ガス排出量の削減継続」、「工場独自目標の拡大」、「社会貢献活動の拡大」、「安全衛生活動」等従来の取り組みを更に強化、拡大した環境保全への目標を掲げています。中でも「環境配慮型製品の提供拡大」はお客様及び社会の環境負荷低減に貢献できるものとして私たちの使命と考えています。又、「工場独自目標の拡大」は、活動をより身近なものに設定することにより、社員一人ひとりが、より一層の環境意識の向上と定着が図られ、高エクセレンス層の拡大に繋がるものとして強化していくつもりです。

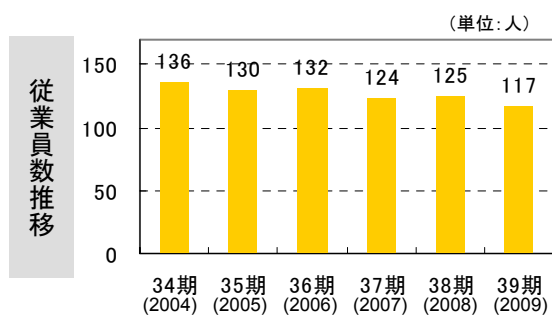
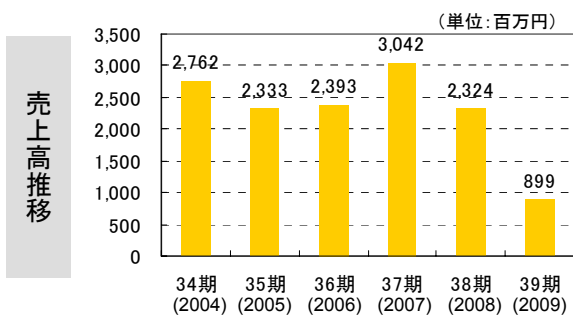
本報告書は当社の地球環境保全への取り組みと、2009年度の活動実績をまとめたものですが、本報告書を通じて当社の取り組みをご理解いただくと共に、皆様からの率直なご意見ご指導を賜れば幸いと存じております。

代表取締役社長

安藤 仁司

創立	昭和47年 7月28日
資本金	7000万円
役員 (2010年9月1日現在)	代表取締役会長 安藤 正如 代表取締役社長 安藤 仁司 専務取締役 中島 正美 監査役 浅野 秀一
事業内容	省力化用機器、制御装置設計製作、工業用電子計測機器類設計製作、各種PCボードパターン設計製作及び実装、マイクロコンピュータ応用制御システム及び計測システム設計製作、自動機システム設計製作、磁性材料計測システム、画像処理技術、各種情報処理
規模	(本社)敷地 : 1274.03㎡(約386.1坪) 建屋 : 1098.24㎡(約332.8坪) (元町)敷地 : 1717.40㎡(約520.4坪) 建屋 : 1055.22㎡(約319.8坪) (山形)敷地 : 1866.94㎡(約565.7坪) 建屋 : 741.50㎡(約224.7坪)

沿革	1972(S47)	凌和電子株式会社設立(仙台市舟丁)
	1989(H1)	仙台市鶴代町に東部工場開設
	1999(H11)	山形市高原町に山形工場を建設
	2000(H12)	仙台市若林区六丁の目元町に元町工場を開設
	2001(H13)	ISO9001:1994認証取得
	2006(H18)	ISO14001:2004認証取得
	2006(H18)	東部工場を元町工場に併合
	2008(H20)	ISO9001維持審査、ISO14001更新審査受審(認証継続)
	2009(H21)	ISO9001更新審査(2008)、ISO14001維持審査受審(認証継続)



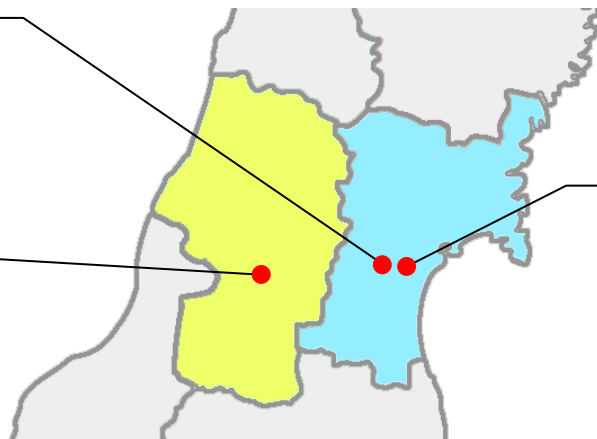
本社・本社工場

仙台市若林区南材木町



山形工場

山形県山形市高原町



元町工場

仙台市若林区六丁の目



4

基本理念

■ 基本理念

当社は、創業以来「創造と奉仕の精神」を企業理念に掲げ、日々の研鑽に努めることによって社会に貢献することをお約束しています。これに基づき経営品質方針及び環境方針を定め、具体的活動に結びつけています。尚、2009年7月には新たに中期経営方針を定め、より明確な目標を掲げています。

企業理念

凌和電子株式会社は
「創造と奉仕の精神」をモットーに
日々、技術の研鑽に努め
より良い技術を創造して市場に提案しつづけることで
社会に奉仕します。

2009年1月1日
凌和電子株式会社
社長 安藤仁司

経営品質方針

基本理念

凌和電子株式会社は、企業理念を経営のよりどころとし、常に地域社会への貢献と顧客満足の追求を第一に、新しい時代に即した健全な企業活動(経営)を推進していきます。

行動指針

凌和電子株式会社は、基本理念のもと、以下の行動指針を定め展開していきます。

- 規律ある社風のもと、優れた人材を育成し、着実な発展を遂げる組織を作ります。
- 新たな知識や技術を積極的に取り入れ、顧客ニーズを捉えた満足度の高い製品、サービスを提供し続けます。
- 改善の眼と挑戦する気概を忘れず、日々責任ある確かな業務と安全で効率よい生産活動に努めます。
- 当社に関わるすべての人々と和を保ち信頼を重んじ、良好な関係を築きます。
- 顧客要求事項、法令などに適合する製品提供のため品質マネジメントシステムを継続的に見直し、経営の体質強化を図ります。

環境方針

基本理念

凌和電子株式会社は、「地球環境の保護・保全」を重要な経営課題の一つと位置づけ、常に環境を意識したものづくりとサービスの提供を行うことで、環境にやさしい、環境と調和がとれた企業活動を継続・推進していきます。

行動指針

凌和電子株式会社は、企業活動の主体である「計測」と「制御」を特徴とする機械器具の開発、設計、製造、販売を通じて、以下の行動指針に基づき環境管理活動を推進し、地球環境との調和を目指します。

1. 製品の開発、設計、製造、販売、廃棄までの各領域において、省エネルギー、省資源、廃棄物削減等により環境負荷の低減を進めると共に、環境にやさしいグリーン調達並びに環境に配慮した製品・サービスの提供に努めます。
2. 継続的に環境マネジメントシステムの改善を行い、環境汚染の予防に努めます。
3. 当社の環境側面に関して、環境に関連する法令、条例及び当社が同意したその他の要求事項を遵守します。
4. 本方針に基づく環境管理活動を展開するにあたり、環境目的、環境目標を設定し、計画に沿った活動を展開し、併せて定期的な見直しを行います。
5. 本方針を、当社で働く人はもとより当社の企業活動に協力している方すべてに周知するとともに、社会の方々にも開示します。

中期経営方針

スローガン

Let's try 20,30,40 !

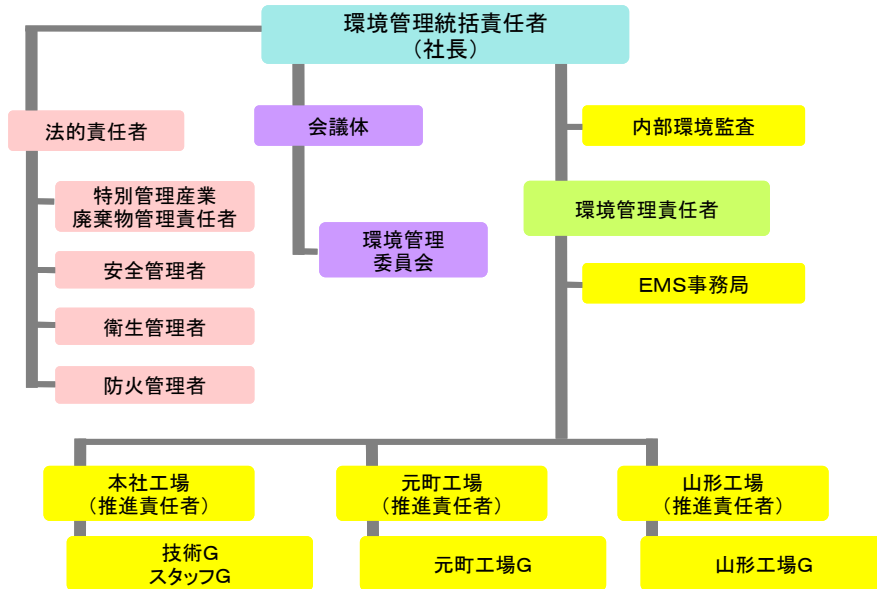
- ◇業務改善を進め、**20%以上**の生産効率UPを目指す
☆付加価値生産性の向上
- ◇積極的な営業展開で
売上30億円に再チャレンジ
☆主力事業、主力商品の確立
- ◇全社一丸で**創立40周年**
☆地域貢献活動の推進

5

環境マネジメントシステム

当社の環境管理体制は、2009年1月に一新し、社長が環境管理統括責任者となり、活動を牽引しています。

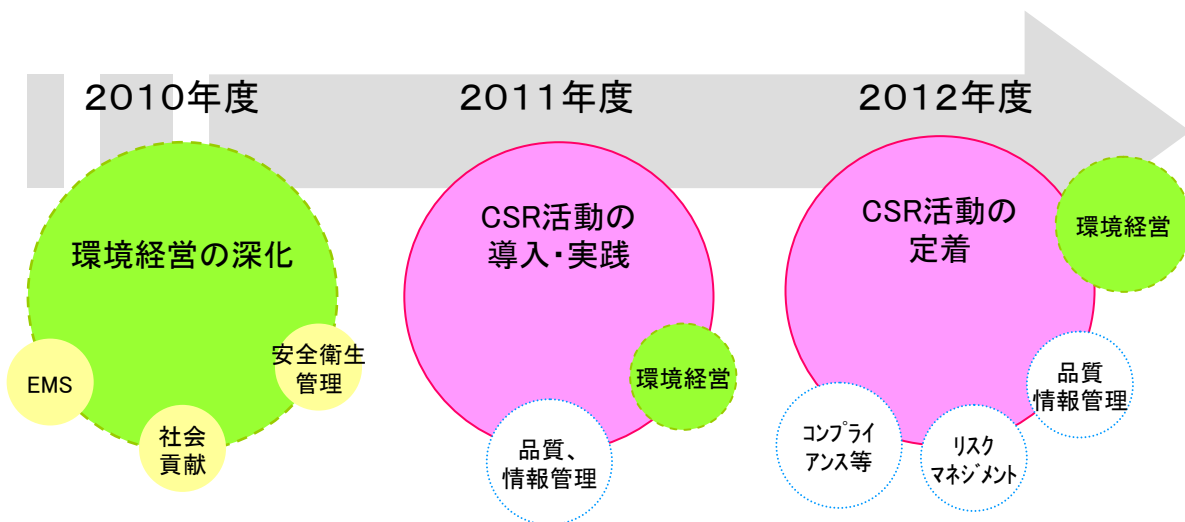
■ 環境管理体制



(2010年9月1日現在)

■ 中期計画の基本的な考え

当社では2009年までの第二期中期計画をもとに活動してきましたが、2010年度は新たに第三期中期計画(2010年度~2012年度)を策定し、更なる深化を目指してまいります。そのステップは「環境経営の深化」からコンプライアンス、品質、情報管理、リスクマネジメント等を包含した[CSR活動の定着]への発展です。



2008年10月に第1回目の更新審査を受け、認証継続となりました。

適用範囲: 本社、本社工場、元町工場、山形工場
 認証登録機関: Bureau Veritas Japan.co.,Ltd.
 認証登録番号: 677923



6

2009年度環境目標及び活動実績

当社は、中期計画に基づき2009年度の活動を推進してきました。目標の設定では、昨年度同様当社が重点目標と定めたものを改善目標とし、それ以外の環境目標の中で中期計画目標「2007年度～2009年度」を既に達成した項目を維持目標とし、活動の重点化を図りました。その中で、事業活動と一体となったテーマでもある環境配慮型製品の提供に最も力を入れてきました。又、活動の更なる活性化に加えて工場の取り組みに一層の自主性を持たせることを目途として工場独自目標を増やしました。

■ 2009年度活動実績(報告範囲:本社、本社工場、元町工場、山形工場)

2009年度は全社目標として改善目標4項目、維持目標4項目を掲げました。(環境コミュニケーション目標は4件を1項目としました) 結果として各工場とも全項目達成し、全社としても同様となりました。大幅達成の項目では生産の大幅減に因るところもありますが、負荷低減等個々の活動が定着してきたことも大きく寄与していると考えています。

評価基準

◎:中期計画をクリア ○:計画対比100%以上達成 △:95%以上達成 ×:95%未満

実績算出

実績値(%):2009年度計画対比/[]は同原単位比(人員ベース)

No.	項目	全社目的・目標		全社活動結果		関連ページ
		中期計画 2010年度	年度計画 2009年度	実績 (計画対比)	評価	
1	環境配慮型製品の提供	全製品環境 配慮型化の推進	製品アセスメント実施 39件以上 環境配慮型製品 登録20件以上	アセスメント43件 登録30件	○	P7
2	地球温暖化ガスの排出削減	2005年度実績より 6%以上削減	2005年度実績より 4%以上削減	△21.1% [△15.0%]	◎	P9
3	廃棄物の排出削減 (一般廃棄物)	2009年度目標維持 継続	1.3kg/人・月以下	△27.1% [22.1%]	◎	P10
	廃棄物の排出削減 (産業廃棄物)	ゼロエミッション達成 リサイクル化推進	再資源化率95% リサイクル化推進	99.7%	◎	P10
4	オフィス用品のグリーン調達(調達率)	100%継続	100%継続	100%	◎	
5	紙資源の削減(購入量)	2006年度 実績値で管理	2006年度 実績値で管理	△24.6% [△31.3%]	◎	P10
	節水活動の推進(水使用量)	2007年度 実績値で管理	2007年度 実績値で管理	△7.0% [△6.1%]	◎	P10
6	環境リスクの低減	評価点を 基準未満とする	評価点を基準未満 緊急事態対応訓練 の実施	各工場訓練実施	◎	P15
7	環境コミュニケーション	環境安全 報告書発行	環境安全報告書発行 環境ニュース発行 (6回以上/年)	環境安全報告書発行 環境ニュース 12回発行	○	P16
		エコ生活推進	情報提供 (原則1回/月)	エコ生活情報 12回発行	○	P16
		地域・行政への 協力	地域・行政への 協力1件以上	・仙台みやぎクールビ ズ参加 ・仙台市まち美化サ ポーター登録・実施 ・環境配慮型事業所 認定	○	P17~
		美化活動 (原則1回/月)	美化活動 (原則1回/月)	全工場 実施	○	P18

※No.1、2、3(産廃)、6は改善目標 No.3(一廃)、4、5、7は維持目標

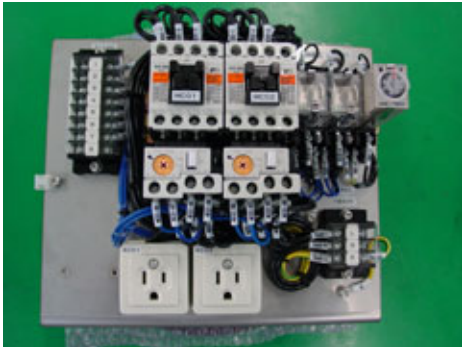
維持目標の管理は管理値を基準として5%増までは管理内とする

※工場独自の活動は18頁以降にご紹介しています

環境配慮型製品の提供

当社の多くのお客様からは、有害物質の排除や省エネルギー化などの環境対応製品が強く求められています。それに加えて当社の計測、制御機器の設計、製造という事業形態からも使用時、廃棄時までを考慮する設計・製作の思想の浸透が欠かせません。従ってこれは当社の環境目標の中でも特に重要と位置づけているテーマです。2009年度は前年度よりも更に高い目標を設定し取り組んできました。その結果、全体の売り上げ金額が大幅に減少する中、環境配慮型製品の売り上げは305百万円となり、前年度比112%となりました。

■ 環境配慮型製品事例



PMC-Aユニット

RoHS指令対応
分解処理の容易化



表示灯ボックス

RoHS指令対応
クロムフリー



センサー基板

RoHS指令対応



警報BOX

RoHS指令対応
長期使用・メンテナンスの容易化



ADAPTER

RoHS指令対応
省エネ74%減で設計



VOICE

□製品アセスメントへの取り組み

本社工場の技術グループでは製品アセスメントを積極的に実施しています。

当初なかなか浸透していなかったアセスメントも、現在では各課員がスムーズにできるようになりました。毎年目標は高くなっていきますがグループ全体で確実に取り組んでいきます。



本社工場 回路技術課
梅津 明広
技術グループ環境リーダー



サージカウンター

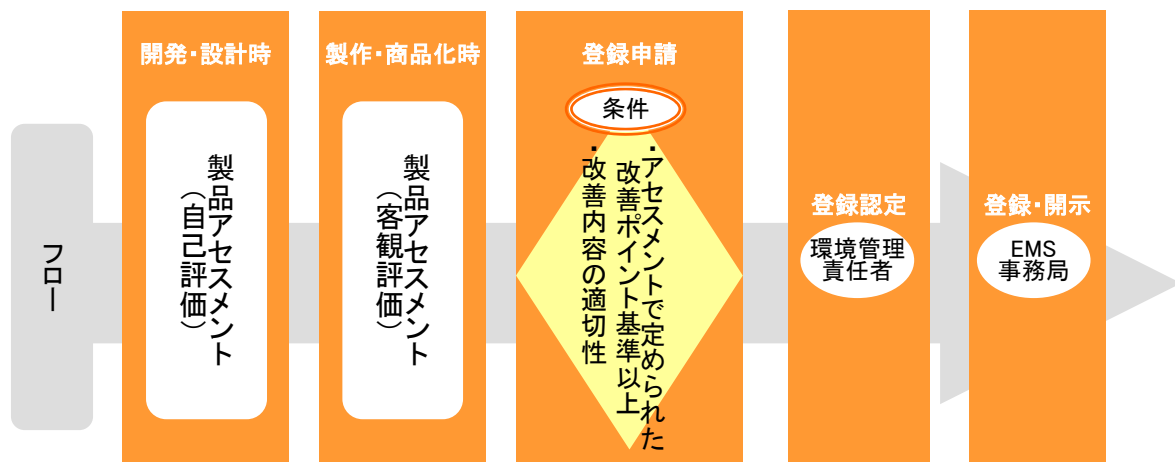
小型化
分解処理の容易化



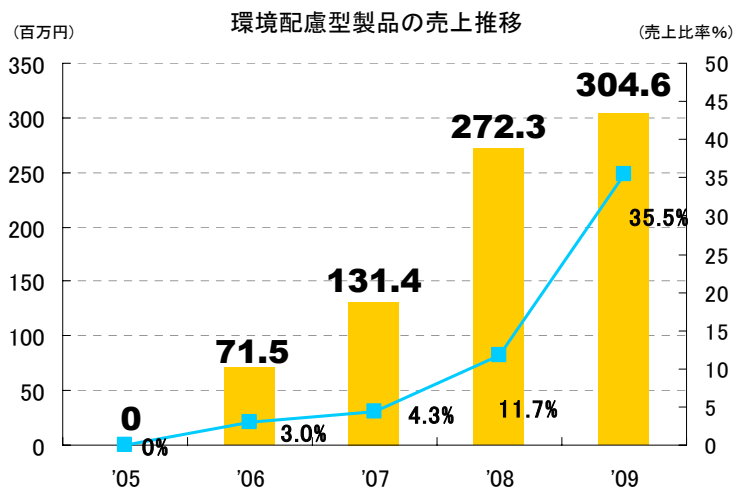
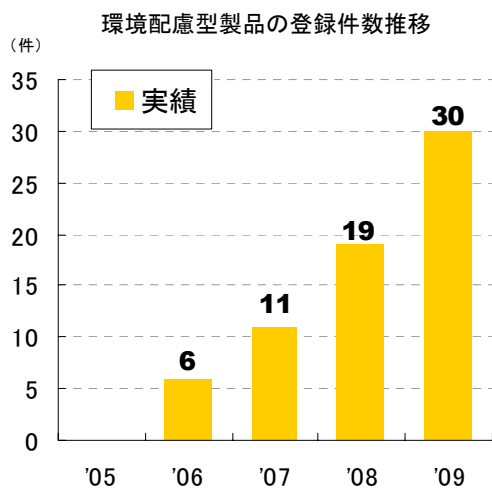
感知器試験機

小型化
カスタマーによる可搬性の向上

■ 環境配慮型製品登録までの流れ



■ 環境配慮型製品の推移グラフ



8

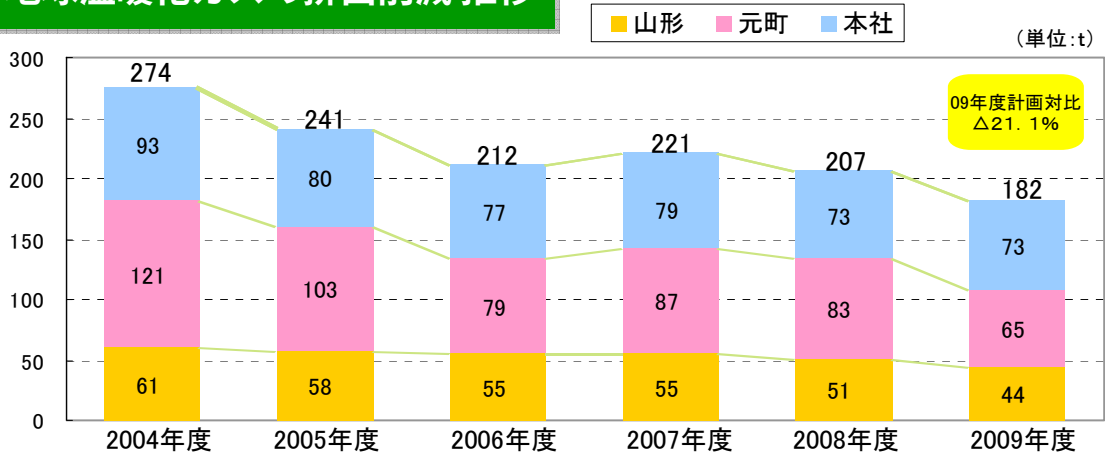
地球温暖化ガスの排出削減

当社は、特に地球温暖化の主因とされている地球温暖化ガスの排出削減については中期目標は達成しているものの全世界的課題と捉え、改善目標に掲げ、削減の継続を図るべく取り組みました。

2009年度の二酸化炭素の排出量は182tであり、前年度比で約12%の削減が図られました。



地球温暖化ガスの排出削減 推移

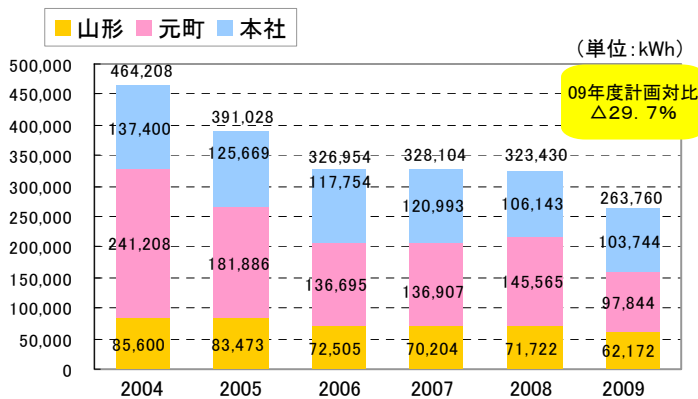


個別のエネルギー使用の削減推移

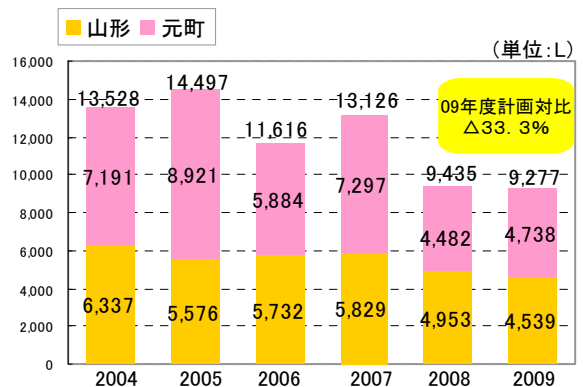
エネルギー源ごとでは前年度比で電気使用量28.5%減、灯油使用量1.7%減、自動車燃料3.5%減となりました。(計画対比では個別のグラフに記載しています)

電気使用量が前年度対比大幅減の理由は、2008年に特需品の生産増に伴う使用量増との値と比較したことによるものです。

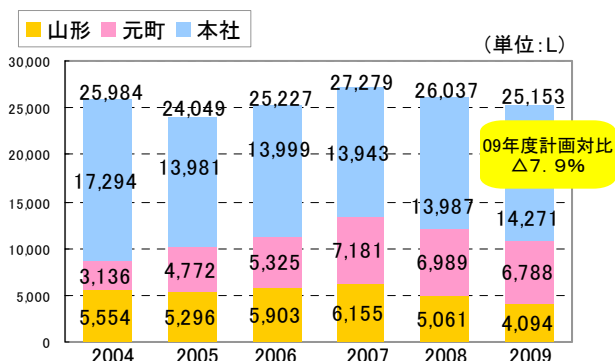
電気使用量の削減



灯油使用量の削減



ガソリン(軽油)使用量の削減



VOICE

有害物質排除への取り組み

資材購買の仕事を通じて、社会全体が有害物質排除の動きになっていると実感しています。

当社も梱包材にリサイクル可能なものを使用する等、日々順応し対応しています。



本社工場 生産管理課
資材購買 係長
佐藤 和彦
廃棄物保管管理者

9

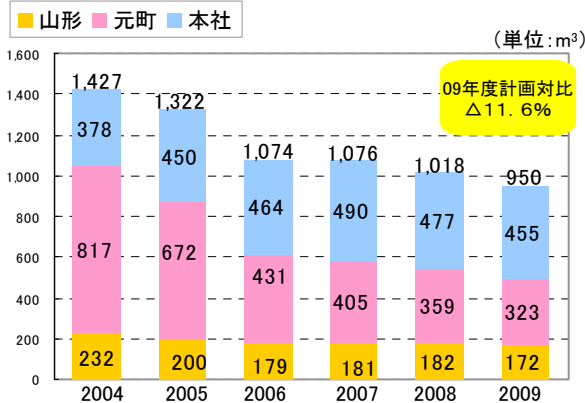
その他の環境負荷低減活動



省資源活動

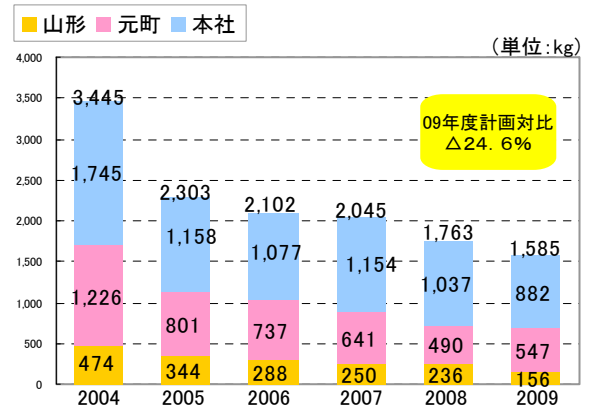
節水活動の推進

2009年度の水道使用量は950m³で、前年比6.7%削減されましたが、一人当たりの使用量では0.58m³/月となり、前年度と変わりませんでした。当社の場合、水の用途はほとんど生活系での使用であり、人員減によるものであると言えます。



紙資源の削減

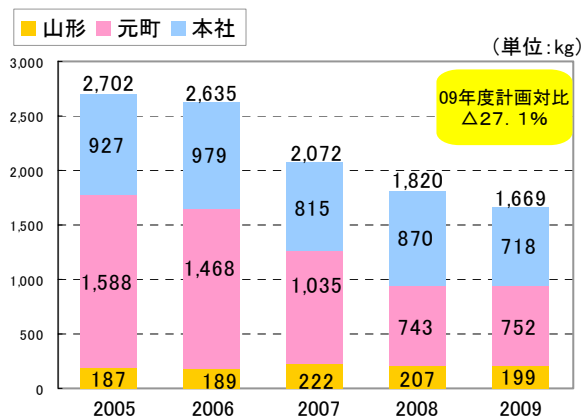
2009年度のコピー用紙等の紙使用量は1,585kgであり、前年度比10.0%の削減となりました。昨年度に引き続き、大きく削減されていますが、前年度に引き続き受注件数の減により設計業務での使用量が減少したことによる大きいと考えています。



廃棄物の排出削減

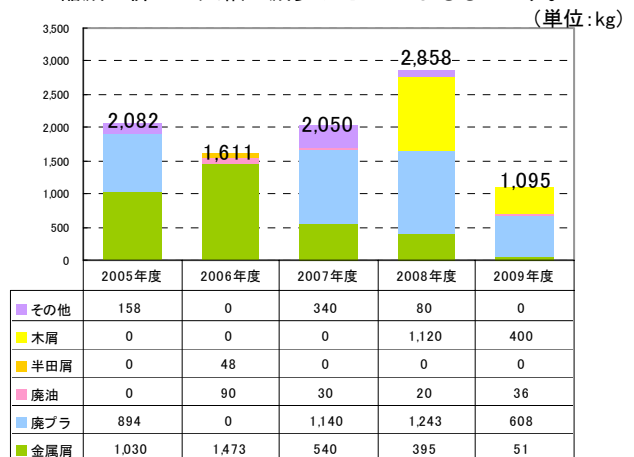
一般廃棄物

2009年度の一般廃棄物排出量は1,669kgとなり、前年度に比較して8.3%減となりました。原単位で比較すると、一人当たりの排出量は1.0kg/月であり、水資源同様前年度と同じ数値となりました。リサイクルできるものは混入させないなど分別ルールは徹底されており、今後もこの数字を維持することを目標として進めていきます。



産業廃棄物

2009年度の産業廃棄物の排出量は1,095kgでした。前年度に比べて61.7%減と大幅な減少となりましたが、購入資材、部材等から派生する梱包資材が、生産活動の縮減に併せて大幅に減少したことによるものです。



※2009年度実績は2009年4月～2010年3月排出量をマニフェスト管理状況として自治体に届けたもの



WATCH

当社ではゴミや紙の分別を徹底しています。昨年は分別ルールの説明会を各工場で行い、パトロールも実施しました。分別活動は社員全体に定着し、継続実施されています。



本社



上: 元町 下: 山形

10

環境教育

当社は、年度環境教育訓練計画のもと種々の内容の教育を行っています。

■ 環境教育の実施

教育名	実施部門	実施日	受講者数
経営層・幹部教育	品質管理課 (ISO推進)	全社 7月21日	3名
管理職・一般社員教育	品質管理課 (ISO推進)	本社工場 7月21日 元町工場 7月22日 山形工場 7月23日	120名
新入社員教育	品質管理課 (ISO推進)	全社 2010年 4月5日	2名
専門分野別教育			
廃棄物保管管理者教育	品質管理課 (ISO推進)	本社工場 2009年 8月 11日	1名
		元町工場 2010年 2月 10日	1名
内部監査員養成教育	品質管理課 (ISO推進)	全社 2010年4月 ~ 2010年8月	15名
内部環境監査員フォローアップ教育	品質管理課 (ISO推進)	全社 8月 9日	12名

・上表において、各工場の対象者に対して一括して実施したものを「全社」としました

2009年
7月

階層別一般教育

階層別教育は、前年度の環境活動の結果と共に今年度の活動内容を全社員に理解してもらうこと、及び顧客の要求事項等の周知を目的として毎年7月に定期的に行っています。今年度もこれに加えて安全衛生教育も含め、環境安全衛生研修として実施しました。



本社



元町



山形

2010年
4月

新入社員教育

2010年4月に新入社員2名を対象として地球環境問題や環境への取り組みの重要性、当社の環境活動及びそのルールなどを説明しました。



2009年
8月

内部環境監査員 フォローアップ教育

内部環境監査の質の向上及び監査レベルのアップを目的としてフォローアップ教育を行いました。



専門分野別教育

■廃棄物保管管理者教育

各工場で任命された廃棄物保管管理者を対象に当社の廃棄物管理方法、ルール、廃棄物処理法に定められた各工場の遵守事項などを説明しました。



本社



元町

■内部環境監査員養成教育

内部監査体制の強化を目的として内部員環境監査員養成教育を行いました。今回新たに8名が任命されました。



VOICE

□廃棄物分別の取り組み

2010年4月に入社して半年経ちました。学生の頃は特に気にすることのなかった資源の分別種類の多さに初めは驚きましたが、現在では自然に分別できるようになりました。



元町工場 機器製造課
榎 拓磨

11

環境監査

当社は、3つの柱からなる監査体系をもって環境マネジメントシステムの維持・向上を図っています。

■ 監査体系

監査の種類	監査の内容	実施
ISO14001維持審査	外部審査機関による ISO14001維持審査	年1回
内部環境監査	当社認定監査員によるパフォーマンスを含む ISO14001適合監査(全職場)	年1回
環境管理責任者パトロール	環境管理責任者を隊長とする環境、品質、 5S、安全を含めての総合監査	年1回

■ 監査結果

ISO14001維持審査

2009年10月に受審した維持審査では不適合なし、改善の機会2件でした。改善の機会とされたコメントに対しても全て改善に結びつけるために対応しました。

指摘項目	指摘件数	是正改善措置
要求事項を満たしていない事項 (不適合事項)	0件	—
改善を要する項目 (改善の機会)	2件	是正完



トップインタビュー風景



現場審査(本社)



部門審査(元町)



部門審査(山形)

内部環境監査

2009年8月に実施した内部環境監査では不適合4件、アドバイス14件の指摘がありました。不適合、アドバイスとも9月までに是正、改善を終えました。

受審部門	実施時期	不適合件数	アドバイス件数	是正状況
環境管理責任者 EMS事務局	8月25日	1件	3件	是正完
本社工場	8月25日	0件	3件	是正完
元町工場	8月25日	2件	3件	是正完
山形工場	8月27日	1件	5件	是正完
合計	—	4件	14件	—



環境管理責任者



山形

環境管理責任者パトロール

2009年10月に行った環境管理責任者主催のパトロールでは7件の指摘がありました。

受審部門	指摘件数	是正状況
本社工場	1件	是正完
元町工場	2件	是正完
山形工場	2件	是正完
全社共通	2件	是正完
合計	7件	—



元町



山形

12

環境リスクマネジメント

■ 緊急対応訓練

当社では、敷地外に環境汚染を及ぼす可能性ある要因として灯油の漏出事故を掲げています。今年度も給油時等での事故を想定して緊急対応訓練を行いました。



元町



山形



■ 廃棄物収集運搬・処理業者現地確認

当社では、毎年委託している産業廃棄物収集運搬業者及び処理業者を計画的に訪問し、保管状況、作業状況、法対応状況等を確認しています。



収集廃棄物保管場A



リサイクル処理場B

■ 法遵守及び苦情への対応

当社は、創立以来環境関連法の違反はありませんでした。又、行政からの指導並びに地域住民からの苦情もありませんでした。

■ 当社に適用される環境法規制等

環境法規制等一覧		
大気汚染防止法 水質汚濁防止法 省エネ法 廃棄物処理法 家電リサイクル法 建設リサイクル法	労働安全衛生法 (鉛則、有機則) 消防法 毒物及び劇物取締法 フロン回収破壊法 自動車リサイクル法	宮城県公害防止条例 山形県環境保全条例 仙台市公害防止条例 山形市環境条例 仙台市火災予防条例 山形市火災予防条例

(努力義務は除く)

環境コミュニケーション

当社は、継続してステークホルダーの方々に環境に関わる情報を発信しています。今年度も引き続き社外に向けては凌和電子ホームページ及び環境・安全報告書での情報発信、又社内向けには環境ニュース(毎月発行)、環境ニュース特集号(エコ生活情報)を発行しました。

■ 当社のステークホルダー



■ 情報発信

環境・安全報告書

当社の環境活動を広く知ってもらうことを目的として環境・安全報告書を発行しています。今回は第5回目となります。



環境報告書2010

環境ニュース(エコ生活情報)

環境ニュースは、社員への情報提供として最も効果的な方法であるので、月1回の発行を継続しています。



環境ニュース

エコ生活情報

ホームページ

当社のホームページに環境報告書や環境コミュニケーション情報を開示しています。



凌和電子ホームページ

社内イントラネット、掲示板

社内イントラネットに環境のコーナーを設け、環境規定類、帳票類、環境活動実績、環境情報、顧客の要求事項、環境に関わる議事録等を開示しています。

又、工場ごと、職場ごとに環境掲示板を設け、「活動の見える化」の強化を図っています。



社内Web

環境掲示板(本社)

■ 地域、行政活動への参加、協力

エコにこオフィス

当社は環境配慮型事業所の認定更新を受け、
継続してグリーン購入やごみの減量等を行っています。



認定証



ステッカー

?

エコにこオフィス

ごみの減量化・リサイクルの推進に
取り組む事業所として仙台市の認定を
受けるものです。
現在当社も含め、300近くの事業所が
登録されています。

仙台・みやぎクールビズ宣言

当社は毎年[仙台・みやぎクールビズ宣言]に参加しています。2009年6月に行われたキックオフ大会では昨年同様、スタッフの一員として会場の事前準備や運営を支援しました。当社でも7、8、9の3ヶ月間全社でクールビズ活動を行いました。



バッジ



掲示用ポスター



宣言書

仙台市[エコドライブ・アイドリングストップ運動]

当社は社員の一層の意識向上を図るべく、ステッカーを社有車全車に貼り、二酸化炭素の排出削減とともに、更なる安全運転を心がけています。



ステッカーを貼った社有車

燃費の調査や社内の掲示物で啓蒙も
行いました。

14

地域貢献・工場独自の活動

当社は、活動の更なる活性化と工場の取り組みに一層の自主性を持たせることを目途として工場独自目標を増やし、活動しています。

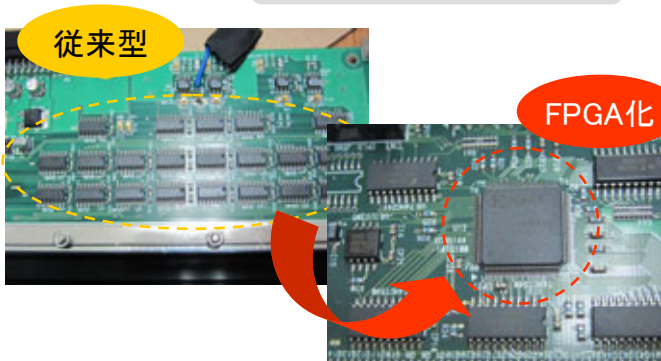


地域貢献活動の一環として「仙台市まち美化サポート」に登録、参加し4年目となりますが、2009年度は活動の範囲をこれまでの3倍に広げました。又、昨年同様近所のスーパー「八百ふじ」さんのレジ袋削減運動並びに食品トレイ回収運動に参加・協力しています。

FPGA化による部品点数の削減

FPGA化することにより、今まで沢山必要だったICの数を減らすことができます。

目標：3件→実績：4件の実施



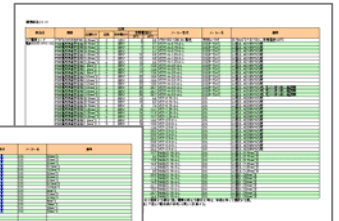
設計の標準化による無駄の排除

設計員が各自選定していた部品を統一し、標準化することで在庫利用率の向上や工数の削減につなげました。

回路の標準化4件
部品の標準化6件
を実施しました。



在庫品の保管・資材



標準化部品リスト

仙台まち美化サポート活動



清掃の様子

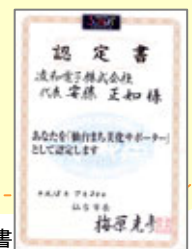


仙台まち美化サポート活動



仙台市では市民、事業者、行政のパートナーシップによる空き缶やたばこの吸い殻などのポイ捨てごみのない快適なまちづくりを推進する仙台まち美化サポート・プログラムを実施しています。

平成22年8月4日現在で当社を含め、169団体が登録・参加しています。



認定書

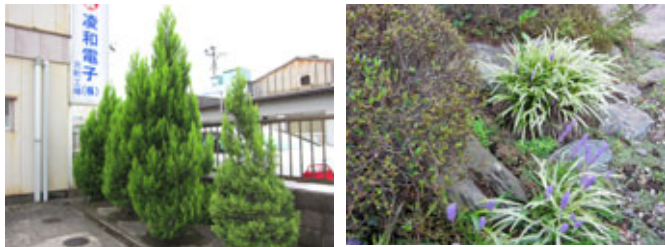


工場の周りの清掃活動に加えて、「仙台工業団地組合」主催の共通駐車場の清掃・草取り活動に参加しました。又、工場内緑化の推進として地植えやプランターの増設を行いました。

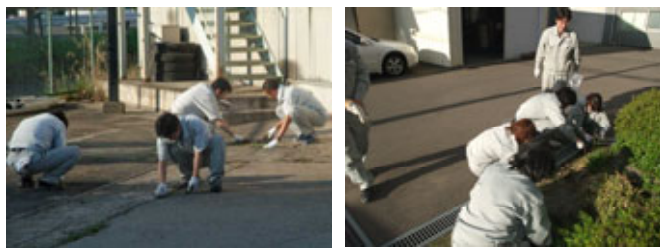
今年度から、当社で初めて献血運動への参加を始め、16名が協力しました。2回目の2010年6月には「仙台工業団地組合」へも呼びかけ、活動の拡大を図りました。

工業団地行事への積極参加

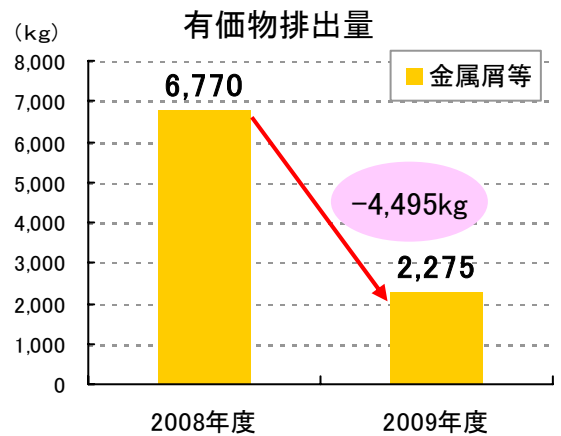
・工場内緑化の推進



・共通駐車場の清掃・草取り活動



有価物の排出削減



設計デザインレビューの徹底や強化、不具合削減と再利用化で昨年度より大幅削減となりました。

献血活動の参加



宮城赤十字血液センターの広報誌に紹介されました！





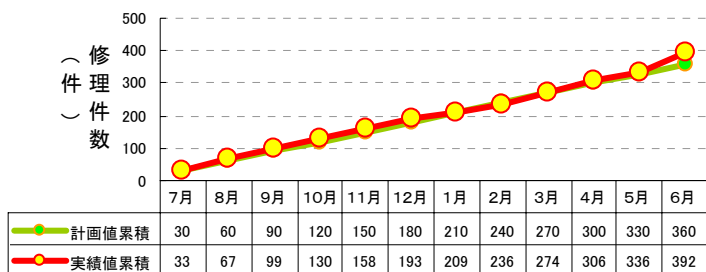
地域貢献活動として工場周りの清掃活動を、エリアを大幅に拡大して実施しました。又、継続して電子機器、装置等の修理事業件数アップの目標を掲げ、リユース、リサイクルの支援を行っています。尚、今年度から試行的にエコキャップ運動への取り組みを開始しました。

修理事業件数のアップ



月30件の修理件数を目標とし、8.9%増で目標を達成しました。

←修理事業用保管棚



修理件数の推移グラフ

在庫利用の推進

必要数量の5%を在庫から利用する目標を立て、実施しました。



在庫棚→

拡大地域清掃活動



エコキャップ運動の推進



VOICE

□社会貢献活動の提案

エコキャップ運動は銀行でその活動を知り、当社でも取り組めるのではないかと提案したところから始まりました。2010年度には工場独自の目標として取り上げられ、社員も職場だけでなく自宅でも回収したり、前向きに協力しています。



山形工場 技術課
生産管理
鈴木 直美

(株)サンユー技研の環境活動

当社関連会社の(株)サンユー技研は2007年8月にエコアクション21を認証取得し、継続的に環境改善活動を進めています。
2009年度はエネルギー、廃棄物、水使用量の削減において、目標を大幅に達成しました。

名称	株式会社サンユー技研
代表者名	代表取締役社長 安藤仁司
所在地	〒993-0075 山形県長井市成田1183-1
事業内容	自動省力化機械全般の設計制作
規模	述べ床面積 1,276m ²
従業員数	17名
連絡先	TEL 0238-88-5011(代) FAX 0238-88-5012 HP http://www.sanyu-engineering.com



■ 環境理念・環境方針

【環境理念】

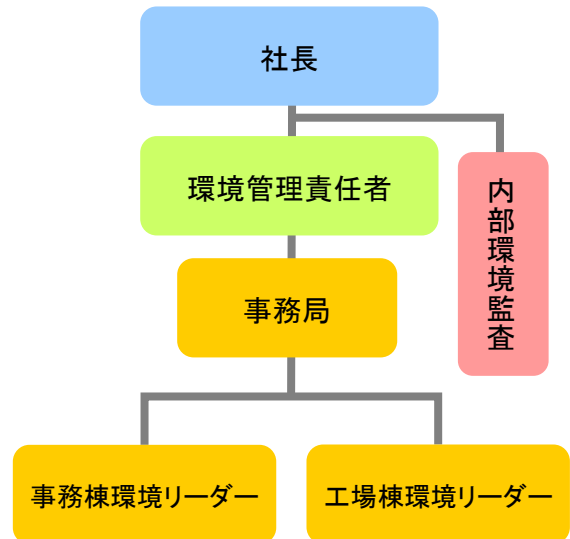
環境理念として、地球環境保全が事業活動における重要な課題の一つであると認識し、以下の通り環境方針を定め、環境保全活動を行い、環境負荷の低減に努めます。

【環境方針】

- 当社が行う環境活動は、以下を重点項目として取り組みます。
 - 1) 工場・事務棟内でのエネルギーの削減。
 - 2) 生産活動にともなう廃棄物排出量の削減。
 - 3) 水使用量の削減。
 - 4) 5S(整理、整頓、清潔、清掃、躰)の徹底。
- 環境に関する法規制や、地域のルールを遵守して行動します。
- 本方針に基づき環境目標を定め、環境活動に沿って活動を行うとともに、定期的に見直しを実施します。
- 本方針は社内に掲示し、全従業員に朝礼等を活用し周知するとともに、一般にも公開します。

制定日 2009年7月2日
株式会社 サンユー技研
代表取締役社長 安藤仁司

■ 環境管理体制



認証登録範囲:(株)サンユー技研
 認証登録機関:(財)地球環境戦略研究機関
 持続性センター(IGES)
 認証登録日:2007年8月7日
 認証登録番号:0001758

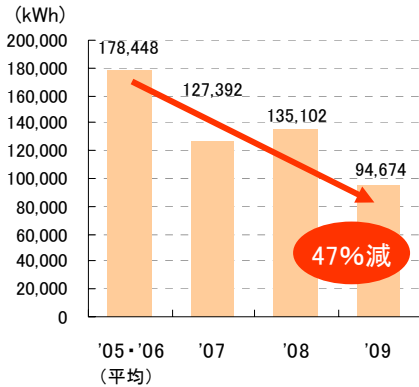


エコアクション21

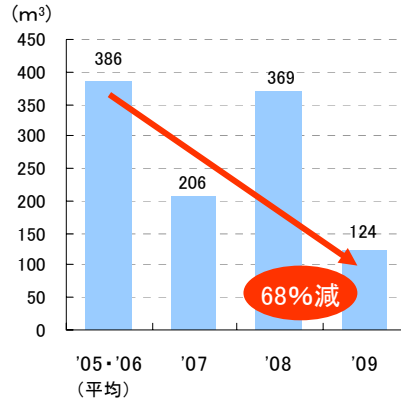
エコアクション21(EA21)とは、環境省が策定した中小規模事業所向けの環境マネジメントシステムです。H22月8月現在で5,127社が認証・登録を受けています。

■ 環境活動実績

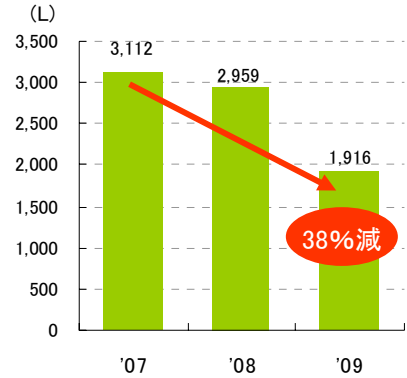
電気使用量の削減



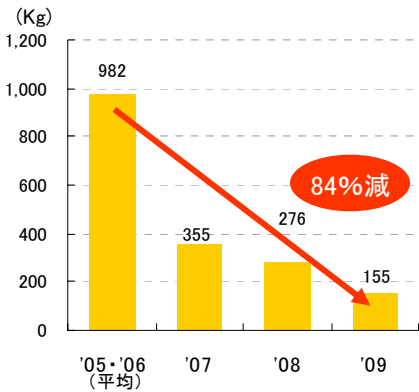
水使用量の削減



ガソリン使用量の削減



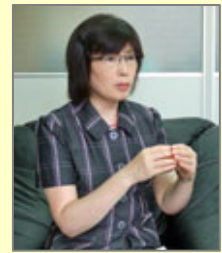
廃棄物排出量の削減



VOICE

□ 環境マネジメントシステムへの取り組み

エコアクション21に取り組み始めて、社員の意識が変わったのが事務局としてよく感じられます。特に廃棄物は基準年度の84%削減となり、社員に分別や節約が定着したことが実績となって現れました。



梅津環境事務局員



工場内改善事例



雑古紙分別用サンプル板設置



産業廃棄物の分別管理



啓蒙事例

■ 環境リスクマネジメント



灯油タンク脇への流出・拡散防止用品の設置

■ 環境コミュニケーション



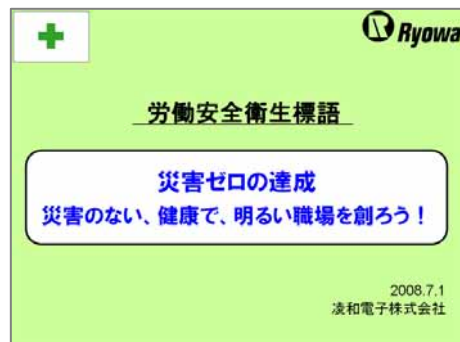
工場近辺団地清掃活動



16

安全衛生管理

当社は、[災害ゼロの達成(災害のない、健康で、明るい職場を創ろう)]をモットーに安全衛生管理活動に取り組んでいます。2008年度以来労働安全衛生管理体制を一新し、「安全衛生活動計画」を策定し活動を進めています。これまで休業災害はもとより不労災害も発生していません。



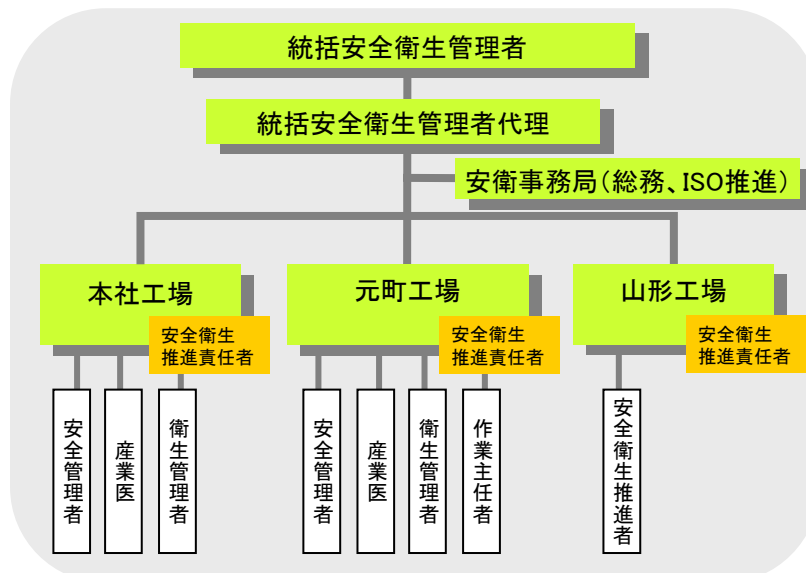
■ 安全衛生活動計画と実績

2009年度の活動計画に基づき活動の展開を図りました。全て計画通り実施しています。

重点実施項目	主な実施内容	実績評価
安全衛生管理体制の確立	組織体制見直し(管理組織・委員会組織)	○
	安全衛生計画の作成	○
	安全衛生委員会の開催	○
安全衛生意識の啓発・教育	安全衛生教育	○
	消防訓練の実施	○
健康維持・増進活動	健康診断の実施、受診の徹底	○
職場の作業環境整備	危険性・有害性の調査	○
	安全パトロールの実施	○

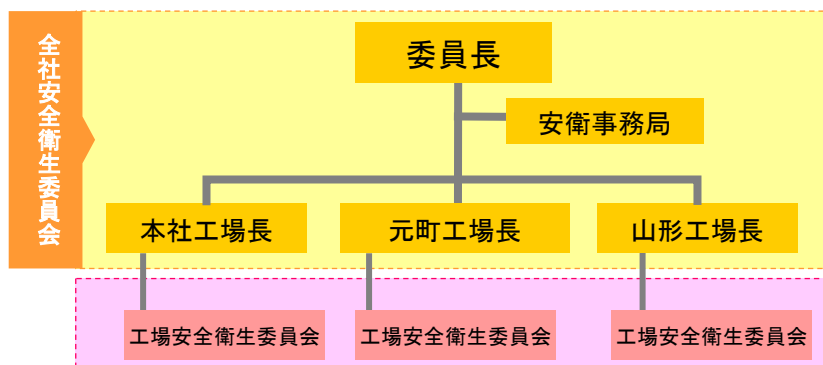
■ 安全衛生管理体制

社長を安全衛生管理統括責任者とし、工場ごとに推進責任者及び法定管理者を定めています。



安全衛生委員会組織

2008年度以降見直した全社及び各工場の安全衛生委員会組織に基づき、全社は年1回、工場は毎月安全衛生委員会を開催しています。
工場の委員会では赤チン災害の報告も義務化し、大きい怪我の未然防止を図っています。

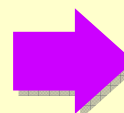


提案改善事例

山形工場では安全衛生委員会での議題に取り上げられた、灯油タンクのドレインパンの錆を落とし、緊急時に漏れることのないように対策をしました。



before



after

安全教育

当社は、毎年1回全社員を対象に安全衛生教育を実施しています。



本社



元町



山形



安全衛生教育テキスト

健康診断

当社は、毎年定期健康診断、生活習慣予防診断、特殊健康診断(鉛、VDT)を実施しています。
2009年度の定期健康診断において未受診者はありませんでした。今後も100%を目指します。

工場	定期健康診断 受診率	備考
本社	100%	受診者58名／対象者58名
元町	100%	受診者43名／対象者43名
山形	100%	受診者27名／対象者27名

新型インフルエンザ予防対策

新型インフルエンザの予防対策として各工場に手指の消毒用アルコールを設置しました。



■ 防火訓練・避難訓練

工場ごとに火災や地震を想定した訓練を実施しました。今年度は外部から講師を呼ぶなど、さらに実践的な訓練を行っています。

本社



外部講師による説明

3階からの避難器具使用デモ



消火器取扱い訓練

元町



消火訓練



消火訓練

山形



消火訓練



救出訓練

■ 安全パトロール

工場長、安全管理者、衛生管理者がメンバーとなり、隔月で安全衛生パトロールを施しています。



改善事例

- ・チェックシート記入の徹底
- ・配線・ケーブルの整理整頓
- ・通路の確保

etc...



before



after

整理整頓は正前・是正後(本社)

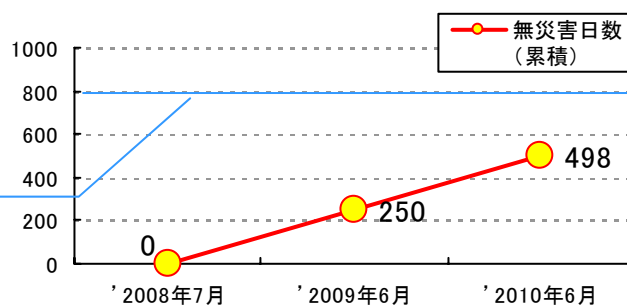


コンプレッサの注意啓蒙ポスター掲示

■ 無災害記録

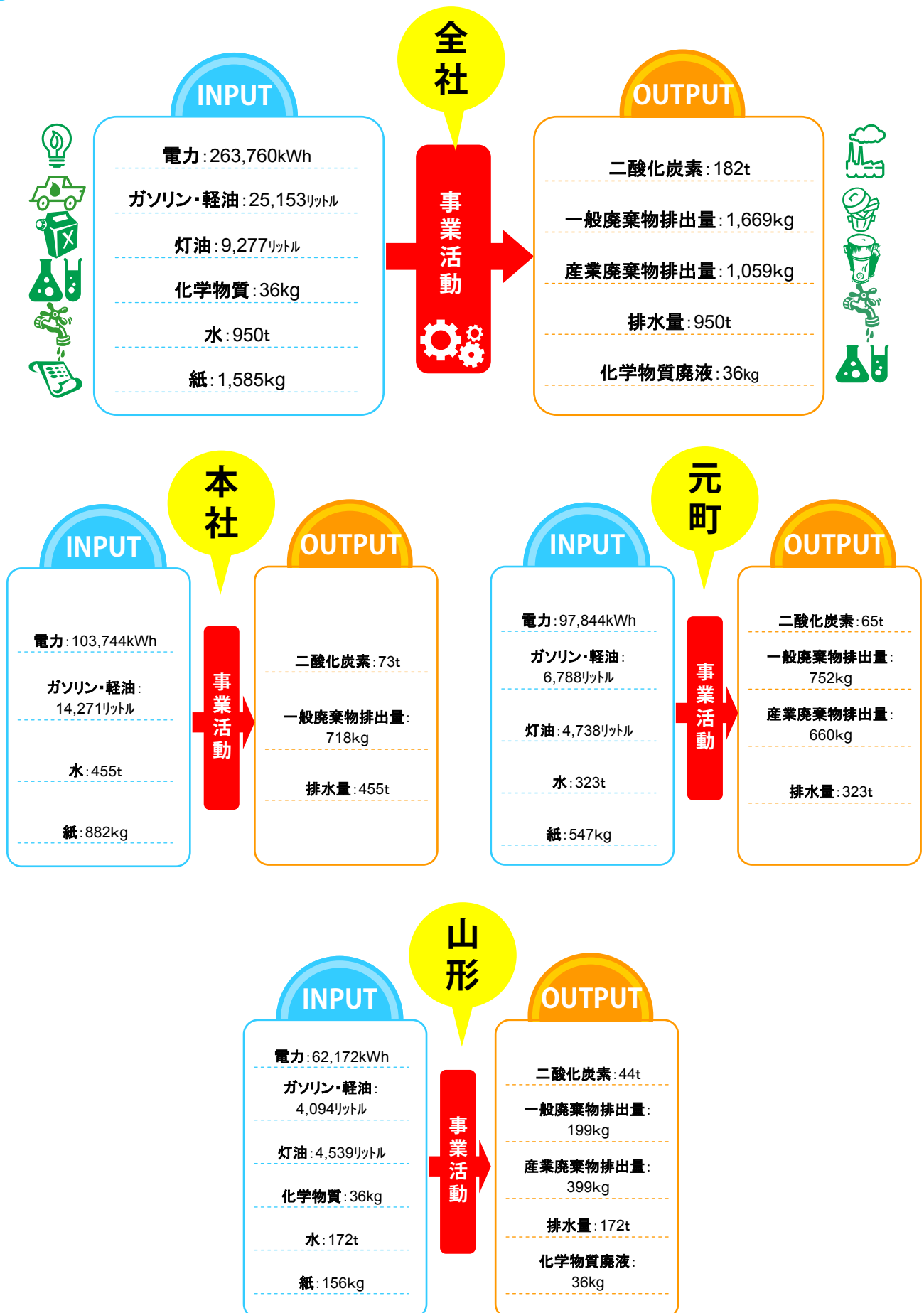
安全衛生活動をリニューアルして以来の無災害記録は498日[凌和電子39期(2010年6月30日)現在]となり、継続しています。

「中小企業無災害記録証授与制度」
第一種(努力賞)



17

環境負荷マスマランス



凌和電子株式会社

〒984-0805 宮城県仙台市若林区南材木町48番地

ホームページ : <http://www.ryowa-electronics.co.jp/>

発行: 2010年9月

次回発行予定: 2011年9月

お問い合わせ先 品質管理課 ISO推進

Tel : 022-266-4188 (代表)

Fax: 022-268-1906